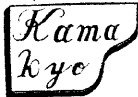


鎌倉交響楽団
第9回定期演奏会

5月27日(土) P.M. 7:00

鎌倉市中央公民館



鎌倉交響楽団第9回定期演奏会

後援 鎌倉市教育委員会
鎌倉音楽クラブ

————— 曲 目 —————

指揮 前田幸市郎

1. 楽劇《ニュルンベルクの名歌手》前奏曲

Die Meistersinger von Nürnberg

ワグナー

2. ピアノ協奏曲 第2番 へ短調 作品21

ショパン

(P)独奏 安田寿子

マエストーソ へ短調 4/4 拍子

ラルゲット 変イ長調 4/4 拍子

アレグロ・ヴィヴァーチェ へ短調 3/4 拍子

————— 休 憩 —————

3. 交響曲第4番 イ長調 作品90 「イタリア」

メンデルスゾーン

Allegro vivace. Adur. 6/8

Andante con moto. Dmoll. 4/4

Con moto moderato. Adur. 3/4

Saltarello: Presto. C dur. 4/4

1967年5月27日(土) P.M. 7. 00

鎌倉市中央公民館

安田 寿子 (Yasuda Toshiko)

《略歴》

昭和21年1月3日生。9才よりピアノを始め

昭和33年 小田雪江氏に師事。

昭和36年 伊藤 裕氏に師事し、現在に至る。

昭和41年 毎日新聞社、日本放送協会共催第35回音楽コンクール・ピアノ部門第2位に入賞〔課題曲は、本日のプログラムと同じくショパンのピアノ協奏曲第2番・全楽章であった〕

昭和42年 現在東京芸術大学4年生。

住所は、東京都中野区若宮町1-4-2

曲目 解説

楽劇《ニュルンベルクの名歌手》前奏曲

マイスタージンガーとは15、6世紀ごろドイツにあった庶民階級出の詩人音楽家のこと。ワグナーはそれに題材をとり、壮大な音楽喜劇を作曲し、この序曲は49才の11月、(1862)ライプチヒのゲヴァントハウスで試演され、全曲は1868年ミュンヘンでハンス・フォン・ビューローの手によって初演された。

一口に言うならば、圧倒的な管絃の演奏効果をもった曲で、劇中の種々な(正邪、愛憎)動機が出没し、最後は大行進となって締めくくられる。

ピアノ協奏曲第2番 へ短調 作品21

作曲の経過 協奏曲第1番、ホ短調よりも1年前の1829年に作曲された。友達に宛てたショパンの手紙に、初恋の嬌声が書かれ、その相手(ワルシャワ音楽院声学科の生徒コンスタンチヤ・グラドフスカ)を思うのあまりこの曲の緩徐楽章を書いた、と記されている。初恋はたちまち御破算となってしまう、この曲はパリ在住の伯爵夫人デルファイースに捧げられた、というのはいかにも多情多感な若き日のショパンらしい出来ごとであろう。

初演は1830年、ウィーンから帰国した作曲家自身のピアノ独奏により華々しく行なわれ、芸術的にも興行的にも大成功を取めた。

内容 美しい名旋律とピアノ演奏の魔術的效果によって、聴く者を酔わせる。

オーケストラ・パートはピアノとは対的に、いたって地味に作られ、伴奏に終始し、ひかえ目に管絃が和音を鳴らし、経の下の力持ちの役割りを果している箇所が多い。したがって、バリバリ弾くのが楽しみだ(!)というアマチュア演奏家には、この曲の管絃伴奏は勝手がちがうためであろうか、あつたに演奏されないようである。

病弱の人だったショパンは、ベートーベンの「皇帝」のような豪華けんらんたる管絃伴奏を書くことは出来ず、彼の全精力は得意のピアノ独奏部分にのみ注がれたものと思われる。

第二章楽ラルゲットが、恋人の面影を伝えているといわれる部分である――。

交響曲第4番イ長調 op. 90 「イタリア」

メンデルスゾーンは1829年(20才)から三年間ヨーロッパ各地を大旅行し、イタリアには5ヵ月間滞在し、この曲もローマの宿で書きはじめられた。有名な銀行家の子息であるから、デラックスな旅であり、快適でのんびりした毎日を送ったに相違ない。

イタリアはギリシャとともに、海洋性気候と美しく底ぬけに明るい青空で有名な、ヨーロッパにおける“湘南伊豆地方”のような観光保養地である。

ここで観光と社交、作曲と演奏の毎日を過ごすうちに出来上ったのがこの曲であり、有名なバイオリン協奏曲や真夏の夜の夢の劇中音楽とともに、彼の名を不朽のものにした名作といえよう。

第一楽章は、すぐに明るく楽しい踊るようなメロディーがとび出す。北国ドイツに成長した青年メンデルスゾーンが初めてイタリアの輝かしい空、紺青の水、オレンジ実る野山と大理石の古代遺跡を眺めた印象が綴られている。続く

第二楽章はイタリアの夜の甘美な空気に包まれた恋の想い出のようだ。

第三楽章は古典型式のメヌエットだが、近代作曲家の彼らしく、幾分自由でくつろいだ感じを出している。第四楽章はサルタレロというローマ近郊の舞曲を暗示するスタイル。ローマのカーニバルを観て、早速ペンを執って書きはじめたものにちがいない。しかし、若さと才能にまかせて作曲したこの曲も、何か気に入らぬところでもあったのか、生前はイギリスで一回演奏されたきりで出版されず、死後9年目に遺稿の中から発見され、のちに有名になったのである。

鎌倉交響楽団メンバー

委員長 福井孝一
名誉指揮者 東清蔵
常任指揮者 前田幸市郎

	(順不同)				
Violin	飯田光子 佐藤元一 五十嵐昭子 塚本祐子 関川健 久保田不二子	石川由美子 永江正臣 坂倉由美子 金子諭 小笠原綾子 ^(原中) 桐本圭三	西井久美子 松原千子 長峯忠雄 阿多貞子 小森明子	政尾和子 丹下慶子 鈴木久仁子 阿部黎子 中静直子	山本彰一郎 青野慶子 藤井佳代子 田辺直行き 大藤ゆき
Viola	丹治汪 薬師寺厚	松平定康	日比谷平一郎	長町朋行	谷川瑞穂
Violin Cello	伊沢竜作 朝香誠彦	岩田清史 前田幸康	飯森十郎 越智昌利	服部甚蔵	浄法寺章
Double Bass	大内達郎	根本繁雄	梶清	長谷恭男	山本信太郎
Flute	益山弘 小林悦子	内田秀夫 高木滋	滝沢三郎	志村一郎	金窪欧二
Oboe	河井怜子	山本賢二	大野守	小磯滋	
Bassoon	岩水祐子	酒井桂子	角田衛		
Clarinet	東博之	土肥昭一	古藤寛	菊地伸介	
Horn	境野建彦	徳永正剛	小西達郎	樋掛信生	
Trumpet	坂輝高	斎藤昭	重松侑紀男	中村邦彦	富士川哲夫
Tombone	富沢信重 重田昇	山口康 石川克美	武田洋	岩沢忠夫	石黒利正
Timpani & Percussion	高橋誠也	元松信男	小長谷宗一	助川利信	
Assistant Conductor	高橋誠也	矢崎彦太郎			
Stage manager	清岡道男	島谷正俊			